



ゲイラス・ブレン

Ready, steady... No!

2021/4/13-25
tue. sun.

映像展示 2021 主催:砂丘館〈観覧無料〉

砂丘館



SILENCE/memorandum

遠藤龍

2021/5/11-23
tue. sun.

砂丘館の映像展示は2012年1月のmikkyoz006からで、今年で10年目になる。

遠藤龍とleのユニットが作る10分ほどの映像に引かれたのがきっかけで、以後毎年同じ真冬にmikkyozの新作を「展示」し続けてきた。上映ではなく、展示としたのは、会場がギャラリーなので、映像がそこに置いてあるようだったからだ。毎年使ううちに、言葉がなじんできた。昨年と今年はmikkyozの展示と前後して、ほかの制作者の映像も展示した。新潟にはシネコンもあり、シネ・ウインドのような素晴らしいミニシアターもあるが、どちらでも上映はできなさそうな、でも、そえられる作品を紹介していきたいという気持ちがつづってきた。

今回前半(4/13-25)に初紹介するデニス・ブランの30分あまりの作品は、東京都の伊豆大島をはじめとする伊豆諸島で開催されてきた美術展「アートアイランズTOKYO」への招聘をきっかけに制作されたもの。同美術展は2020年から21年にかけて、制作過程を展示、公開するという形で実施され、さらに参加アーティストがそれぞれzoomでプレゼン形式により

作品を発表し、語る場が設けられた。新潟市在住で、以前砂丘館に勤務していた岡部安曇さんがその手伝いをしていたので、時々話を聞いていたが、デニス・ブラン氏の作品、というよりそのプレゼンが異様に熱かったと語る岡部さんの声がとても高ぶっていた。さっそく岡部さん経由で氏にご了解をいただき、作品をインターネットで見せてもらった。気が付いたら2度見ていた。面白いとか、衝撃的というのではない。見て、聞いて「いる」時間につながれ、囚われたいという奇妙な気持ちを感じたのである。繰り返しが続く映像はある意味で(特に何らかのドラマを期待する目には)退屈なのだが、その退屈という時間の底に恍惚という黄金の水たまりがある。アンリ・ボスコのふしぎな小説『骨董商』(天沢退二郎訳)の読中感を思い出した。

後半はmikkyozで映像を制作してきた遠藤龍の単独作品を初展示する(5/11-23)。震度と深度の深まってきた近年のmikkyozとはずいぶん違う感触におどろく。まだ未成のものに満ちている感じ。こういう生(なま)なものにひそんでいる、見えない何かに、何か分からないまま揺すられる。
(大倉 宏)

デニス・ブラン 〈Ready, steady... No!〉 32分51秒



遠藤龍 〈SILENCE/memorandum〉 10分56秒

デニス・ブラン Denis Brun

1966年10月28日雨の金曜日23時10分にフランス中部のドゥゼルティースに生まれる。ヴィラアソン国立美術学校(ニース)を1994年卒業後、マルセイユのビエールバルビゼ音楽院の elektro アコースティッククラスに参加。2004年ロサンゼルスでドキュメンタリー映像を制作。2009年インドネシアに滞在、地元のアーティストと共同制作を行う。2016年「アートアイランズTOKYO」に参加。ニューヨーク、マルセイユ、パリで個展。「Ready, steady... No!」は新型コロナウイルス感染拡大下の2020-21年に開催された「アートアイランズTOKYO」のために制作された。

遠藤 龍 えんどう りゅう

写真、映像、音を用いて創作活動を続ける。個人活動のほか、2009年よりleとのユニット「mikkyoz」として活動。



砂丘館

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

会場:砂丘館ギャラリー(蔵)

9:00-21:00 休館日:月曜日
 ※展示会期中ではありませんが、ゴールデンウィーク期間は4/30、5/6のみ休館)
 新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676
 E-mail sakyukan@bz03.plala.or.jp
 新潟駅万代口より浜浦町線C2系統 又は 観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分
 ※砂丘館には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。
 ※新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

〈新型コロナウイルス感染防止のためマスクの着用をお願いします。〉

私たちは砂丘館の自主事業を応援しています。

新潟ビルサービス NSGグループ SHIKAWA 新潟ビルサービス
 丸屋本店 藤田金庫 WIND 郷土の文化に親しむ会